



「三世代交流水田での米づくり」で住民交流

きたこまつ よっかいちし
緑ゆたかな北小松をまもる会（三重県四日市市）

- 三重県四日市市の北小松町では、地域住民の世代間の交流を深めたいとの思いから、平成17年より「三世代交流水田」での米づくりを実施。
- 平成19年に農地・水・環境保全向上対策に取り組むに当たっても、この三世代交流水田での米づくりを農村景観向上活動の「景観形成・生活環境保全」として位置付け、継続的な活動が展開されている。
- 三世代交流水田での米づくりは、地域の子供会（児童と父兄）と老人会が連携し、手植え、鎌による刈取り、足踏み式脱穀機による精米といった旧来の農法を用い実施している。
- この活動を通じて地域住民の世代間交流が深まるとともに、子供達を含む地域住民に農業や環境の大切さを伝えていきたいと考えている。

【地区概要】

- ・取組面積 17 ha（田17ha、畑0.3 ha）
- ・資源量
開水路2.8 km、パイプライン1.9 km、
農道11.5 km
- ・主な構成員
農業者、農事組合法人、自治会、
女性会、子供会、他6団体
- ・交付金 約1百万円（H29）
〔 農地維持支払
資源向上支払（共同） 〕

田 植 [5月]

子供会の児童と老人会が一緒になって、昔ながらの手植えにより田植え



稲刈り・脱穀 [9月]

子供会の児童らが老人会の指導のもと、鎌により手刈した稲を足踏み式脱穀機により精米



餅つき大会 [10月]

秋の大祭で、収穫した餅米を使い交流餅つき大会



世代間交流で、豊かな農村環境と文化を伝承



世代を越えたため池、農業用水を守る取組

にぎりいけ おわりあさひし
濁池地域環境保全の会（愛知県尾張旭市）

- 当会の位置する尾張旭市は、名古屋市に隣接する住宅都市で、農家数は総世帯数の1%程度。江戸時代から伝わる農業用ため池の「濁池」や用水路の江ざらいは4つの農業者組合で行い、農地周辺の草刈り等は地元自治会やボランティアグループが実施してきた。濁池を次世代に伝えていきたいとの地域住民の思いが一致し、農業者と非農業者が連携して活動組織を設立。
- 児童を対象に、濁池を農業用ため池としての歴史や役割を学ぶ教材とした出前講座のほか、濁池受益地の水田での田植えや稲刈り等の農業体験を実施するなど、子供たちに農業用水の大切さを伝えている。
- さらに多くの学校や地域住民との連携を深めるため、公民館や市民祭でのパネル展示等の広報活動に積極的に取り組んでいる。

【地区概要】

- ・取組面積 12ha(田8ha、畑4ha)
- ・資源量
開水路6.0km パイプライン1.2km、
ため池1箇所
- ・主な構成員
農業者、非農業者、農業者組合、
自治会、JA、市民ボランティア団体、
土地改良区
- ・交付金 約1百万円(H29)
 - 農地維持支払
 - 資源向上支払(共同、長寿命化)

「濁池」や農業用水を中心とした活動

濁池の保全活動

- ・「濁池を次世代に伝えていきたい」という地域住民の思いが一致し、農業者と非農業者が連携し草刈等の保全活動を実施している。

小学校への出前講座

- ・自治会等がスクールボランティアとして様々な学校行事に関わっていたこと、平成18年に愛知県が実施した「学童によるため池調査」で、児童から濁池に対して「水をきれいにしてほしい」、「ゴミをなくしてほしい」などの意見が寄せられていたことから、濁池を農業用ため池としての歴史や役割を学ぶ教材とし、児童を対象に出前講座を開催。
- ・木曽川上流にある牧尾ダムから木曽川を經由して濁池に通水されるまでの愛知用水の役割や水の大切さについて講義。



濁池の草刈作業



小学4年生を対象に行った
出前講座

小学生の農業体験



春の田植え体験
の様子



秋の稲刈り体験
の様子



子供たちや地域住民に活動等を紹介

- ・地区公民館や市民祭等でパネル展示を行うなど積極的に広報活動に取り組んでおり、さらに多くの学校や地元の人々と連携をしていきたいと考えている。

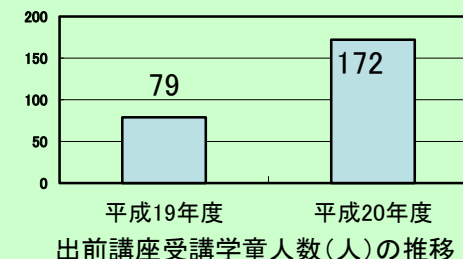


地元の公民館祭に出展



農業祭に出展

- ・出前講座については、平成19年度に小学4年生を対象に実施。20年度は校長が活動組織に出前講座の開催を呼びかけて、4年生と5年生を対象に実施。5年生は2年目の受講であり、水源涵養などより高度な内容の授業を受けた。





環境保全活動を通じて地域企業と交流

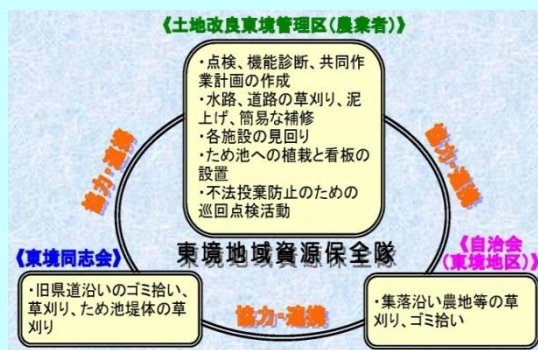
ひがしざかい かりやし
東境地域資源保全隊（愛知県刈谷市）

- 本地域は、大型郊外店の進出等急速に都市化が発展しており、非農家の割合が9割を超える都市近郊の農業地域。県営経営体育成基盤整備事業（平成16～21年度）を契機に維持管理体制の再構築を含めた組織づくりを図り、集落営農を核とした地域農業の継続的な発展を地域一体となって目指している。
- 平成29年8月に地域企業トヨタ車体㈱が主催し、外来種駆除活動や対策を行う人材の育成と、水辺の生き物に関する環境学習を目的としたミシシippアカミガメ駆除を開催。愛知県生態系ネットワーク協議会、小中学生、地域住民、研究者、環境省、刈谷市、当保全隊の産・官・学・民が一体となり実施。
- 地域企業デンソーと共催で清掃活動を実施。（デンソーハートフルデー、DECOウォーク刈谷）
- 平成19年度からクリーン大作戦を展開し、地域の約30の各ボランティア団体、企業、小中学校が参加。地域に根付いた活動となり、年々参加者は増加。ポイ捨てが目に見えて減っている。

【地区概要】

- ・取組面積 63 ha（田 63 ha）
- ・資源量
開水路 13.0 km、パイプライン 13.3 km
農道 11.2 km、ため池 6カ所
- ・主な構成員
農業者、自治会、同志会、
土地改良東境管理区
- ・交付金 約4百万円（H29）
〔 農地維持支払
資源向上支払（共同、長寿命化） 〕

土地改良管理区が中心と なって維持管理体制の構築



年間活動計画作成



水路の泥上げ



ため池周辺の草刈り

産・官・学・民が一体となった 環境保全活動の取組

アカミガメの駆除 (生態系保全・水辺環境学習)



事前打合の状況



罠の設置状況



カメの捕獲状況



捕獲されたアカミガメ

捕獲したカメ

アカミガメ 54頭
ニホンイシガメ 1頭
ニホンスッポン 1頭

クリーン大作戦に 約30団体660名が参加



中学生分別作業



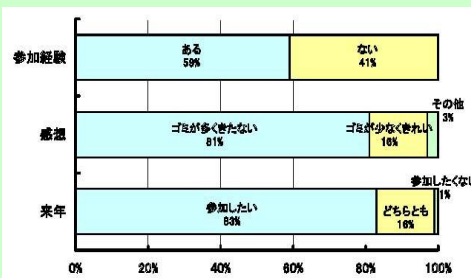
クリーン作業状況



アンケート調査



団体参加状況



アンケートでは、約6割の方が参加経験あり、約8割の方が次回も参加したいと回答。



水田魚道の設置を通じた活動の展開

えのきまえ あんじょうし
榎前環境保全会（愛知県安城市）

- 本組織は、平成19年度から農地・水保全管理支払に取り組んでおり、近年の環境配慮に係る意識の高まりなどを受けて、愛知県農業総合試験場等との連携のもと、地区内の水田に水田魚道及びカエルの脱出装置を設置。
- 水田魚道と魚道を設置した観察水田において、生物の観察や伝統的農機具を用いた農作業体験など、子どもが農業や環境の大切さを再認識し、地域や農業への理解を深める活動を実施。
- また、地元の保育園・子供会等との連携のもと地域資源の保全活動を実施しており、景観保全のために植栽したヒマワリを活用したイベント等を開催。更に、地元農協は、水田魚道を設置した水田で栽培した減農薬米を「どじょうの育み米」として販売。

【地区概要】

- ・取組面積 69ha（田65ha、畑4ha）
- ・資源量
開水路 13.0km、パイプライン14.6km、
農道 8.5km
- ・主な構成員
農業者、非農業者、町内会、
榎前農用地利用改善組合 等
- ・交付金 約5百万円（H29）
農地維持支払
資源向上支払（共同、長寿命化）

研究機関との連携による 水田魚道等の設置



- 水田の生物多様性を確保するため、構成員、耕作者等の関係者が話し合い、水田と排水路を結ぶ水田魚道を設置
- 水田魚道は、愛知県農業総合試験場において開発されたものであり、保全会では、遡上する魚類等の観察・調査を週2回程度の頻度で定期的実施
- 生態系の保全に欠かすことの出来ないカエルを保護するため、カエルの脱出装置を水路に設置

水田魚道を活かした活動



- 水田魚道での生き物調査を実施する事で環境に対する意識を醸成



- 魚道を設置した水田を観察水田としても活用

- 観察水田で伝統的農機具を用いた農業体験を実施



更なる活動の展開



- 水田魚道を設置した水田で節減対象農薬を地域慣行の5割低減して栽培した米を「どじょうの育み米」として販売

- また、地元製パン工場とも連携し、米粉パンとしても販売



- 多様な主体による取組
(中学生によるゴミ拾い)



- ヒマワリの植栽
(活動組織が主体となってヒマワリ祭りも開催)



農業用水を活用した防災力強化の取組

たきちょうせいわ

多気町勢和地域資源保全・活用協議会（三重県多気町）

たきちょう

- 当地域では、立梅用水土地改良区の5集落とこれとは異なる利水からなる5集落が多面的機能支払の活動組織を構成し活動を実施。
- 立梅用水は古くから農業用水としてだけでなく、生活用水としても活用されているが、近年、異常豪雨の多発により、降雨を分散して河川へ安全に流出させる承水路としての機能も果たしている。
- 冬期には維持用水としての通水があり、年間を通して流水があることから、火災時の消火用水とするなど、地域の防災力向上に活用されている。

【地区概要】

- ・取組面積 700ha（田480ha、畑220ha）
- ・資源量 開水路86.6km、農道87.5km、ため池8箇所
- ・主な構成員
農業者、営農組合、自治会、改良区、学校・PTA、図書館 等
- ・交付金 約21百万円（H29）

（ 農地維持支払
資源向上支払（共同、長寿命化） ）

施設の保管理体制



水士里サポート隊
（農家・非農家を
含む12名で構成）

施設の
点検・機能診断



- 土地改良区の職員を中心に「水士里サポート隊」を結成し、施設の機能診断・補修や、水士里情報を活用した保全プランの作成、農村環境保全活動等、様々な取組へのサポートを実施。

防災用水としての役割



承水路としての機能
（放水ゲートの操作）

立梅用水を活用した
消火訓練



- 多面的機能支払交付金を活用した防災の取組
 - ・立梅用水を活用した消防利水
 - ・立梅用水を利用した消火訓練（消防団、住民、消防署）
 - ・消防署による水利点検（消防署と協定）
 - ・行政と連携しイベントの際に防災・啓発活動
 - ・行政と連携しケーブルTVによる防火水利情報の提供
 - ・NTTドコモ通信による立梅用水の水位水量情報の提供
 - ・改良区を通じて洪水時の雨水処理のゲート可動研修

今後の課題

- 防災情報と水利システム情報の連携利用により行政、消防署、消防団などとの情報共有が迅速になった。今後は、広範囲な情報発信を通じた地域全体での情報共有が必要。
- 近年、自然災害等が多発していることも踏まえ、関係機関、行政と地域住民の連携により、農業用水路の防災機能について情報発信し、最大限に活用していく。



中山間地域における多様な事業を導入した地域振興

はちぶせ

なかつがわし

八布施活動組織（岐阜県中津川市）

- 当地区は、岐阜県東部に位置し、周囲は標高700～1,200mの山地が広がる自然豊かな地域である。
- 農業者の高齢化や減少により、地域営農の維持が危ぶまれる中、農事組合法人「はちたか」を設立し、草刈りなどの農地維持活動について、集落全員参加型の共同活動を実施している。その結果、集落行事にもほぼ全員が参加するなど、地域の絆が保たれている。
- イノシシやシカなどの鳥獣被害が増加しており、地域ぐるみで電気柵等の設置と日常管理を実施するとともに狩猟免許を取得し、イノシシを捕獲する取組も行っている。

【地区概要】

- ・取組面積 28ha（田28ha）
- ・資源量 開水路20.0km、農道6.0km
- ・主な構成員
農業者、農事組合法人、自治会、女性会、子供会等
- ・交付金 約2.3百万円（H29）
〔 農地維持支払
資源向上支払（共同、長寿命化） 〕

活動開始前の状況や課題

- 当地区は、中山間地域に位置しており、過去においては、水田に引く水をめぐって水喧嘩が絶えなかった。
- 農業者の高齢化や人口減少に伴い、集落の全戸が参加する農事組合法人「はちたか」を設置。
- 水田や用水路などの地域資源の保全はもちろん、老朽水路のパイプライン化や基盤整備未実施ほ場の整備が課題。
- 獣害被害も増加しており、既設の電気柵の日常管理に苦慮。



（農）はちたか設立



電気柵設置と保守

取組内容

- 地域農業を維持するため、様々な事業に取り組む。
 - ・多面的機能支払交付金
草刈り等の農地維持活動や施設補修
 - ・中山間地域等直接支払交付金
湿田圃場の改良工事。障害木や竹の除伐
 - ・県営経営体育成基盤整備事業
用水路のパイプライン化や基盤整備
 - ・水田法面畦畔管理安全省力化推進事業
傾斜地対応型自走式法面草刈機の導入
- 地域ぐるみで電気柵の設置と日常管理を行うとともに、狩猟免許取得者（4名）によるイノシシの捕獲を実施。シカ対策として、高さ1.8mのワイヤメッシュの設置も実施。
- 子供会の活動として、生きもの調査を実施し、地域の自然を学習する場を提供。



ワイヤメッシュ設置



生きもの調査

取組の効果

- 地域の共同活動が浸透したことにより、農地の利用集積が進行。（農事組合法人に約8割を集約）
- 野菜（ブロッコリー）栽培による女性の農業への参画を推進。
- 鳥獣害対策の研修や講習など積極的に参加することで被害を少しでも減らそうと努力した結果、以前より減少。
- 捕獲したイノシシを業者に解体してもらい集落行事の際、焼肉や鍋にして楽しむことで、地域コミュニティが活性化。
- 大学生との交流を開始。（H29年度は明治大学（4名）が来訪し、草刈り等を実施）



ブロッコリーの手入れ



集落行事の風景